

2025年10月24日（金） 第5&6限

命を考える講話 『いのちの理由 コウノドリの現場から、あなたへ』

岐阜県総合医療センター 新生児内科主任医長 寺澤大祐氏

医療の現場で日夜治療にあたっている寺澤大祐先生から、ご自身が医師を目指された動機、病気や障がいがあって生まれてくる赤ちゃんとその家族から学ぶことなど、全校生徒を対象にご講演いただきました。「生まれてきたわけ」は赤ちゃん自身が教えてくれていること、家族に見舞われることのない患者さんとは友だちになって接することなど、尊い命と向き合ってきた中で行き着いた寺澤先生の思いをお話いただきました。病気や障がいがあって生まれた小さな命が、懸命に生き命を全うする姿をスライドで目の当たりにし、涙を浮かべ深く感じ入っている生徒も数多くいました。今ここに自分がいることは「奇跡の連続」の結果であることを一人ひとりが改めて感じ、自他の命の大切さや尊さについて考える大変よい機会となりました。講演後の質疑応答では、「救えなかった命から何を学んでいるか?」「患者さんやその家族と向き合う時に何を大事にしているか?」などの質問があり、寺澤先生は生徒からの質問の一つひとつに丁寧に答えてくださいました。

また、講演後の座談会では会場に入りきらない程の100名を超える生徒が参加し、医療現場で働くことのやりがいや大変さについて尋ねたり、進路の悩み、受験勉強の辛さ孤独さを打ち明けたりするなどの姿が見られました。本当に沢山の生徒や職員、保護者が、寺澤先生から明日を生きる勇気と自信を頂きました。



【講演後の生徒の感想】

低体重出生児のことは知っていたけれど、まさかあそこまで小さいとは思わなかった。自分の力で生きて成長していく姿に生命の力強さを感じた。親や自分の生命に感謝して毎日を生きていきたい。

自分が今こうして生きていられるのは「平凡な奇跡」が続いているからなんだと思うと、これから何があっても胸をはって頑張っていける気がします。「生まれてきてくれてありがとう」と言ってくれる家族を大切にしていきます。

寺澤先生 本当にありがとうございました。